

資料・統計

2007年病理部業務統計

Annual Report of Pathology in 2007

小柳 実 落合 広美 宇佐見 公一 北澤 綾
 佐藤 由美 泉田 佳緒里 川口 洋子 川崎 幸子
 栗原 アツ子 西村 広栄 木下 律子 中島 亜希子
 渡辺 雅美 太田 玉紀 本間 慶一 根本 啓一

Minoru OYANAGI, Hiromi OCHIAI, Kouichi USAMI, Aya KITAZAWA,
 Yumi SATOU, Kaori IZUMIDA, Youko KAWAGUCHI, Sachiko KAWASAKI,
 Atsuko KURIHARA, Kouei NISHIMURA, Noriko KINOSHITA, Akiko NAKAJIMA,
 Masami WATANABE, Tamaki OHTA, Keiichi HOMMA and Keiichi NEMOTO

要旨

2007年(1月~12月)病理部業務統計をまとめた。総依頼件数は24,618件で、内訳は病理組織診断12,909件、細胞診断11,691件、電子顕微鏡検索0件、病理解剖18件であった。細胞診、組織診を合わせた術中迅速診は1,356件、院外受託は1,931件であった。業務件数は作製ブロック数48,555個、各種染色標本90,756枚であった。受け入れた研修生、実習生は総数20名であった。

2007年は総件数では前年比約1.1%増であった。免疫染色は前年比5.8%減の14,076件、また乳癌のHER2タンパクの免疫組織化学的検索HercepTestは90%増の574件となった。

はじめに

2007年病理部業務統計を報告する。医療の高度化、癌治療の進歩に伴い病理部に対する要望も多岐にわたり、より高度で詳細な病理学的検索、あるいは情報の提供が求められるなかで出来る限り努力をしてきた。

また当院の理念でもある地域協力、人材の育成と言う立場から研修医、医学部学生、検査関連実習生を受け入れ、さらには中国からの研修生の受け入れ等可能な限り対応をしてきた。

2007年病理部業務件数 (表1)

受付依頼件数は昨年に比し1.1%増加で総依頼件数は24,618件であった。組織診は12,909件で、細胞診は11,691件であった。院外受託は1,939件で、1.6%の増加であった。今回の院外受託増加は、プレスト

センターからの依頼増であった。施設は13施設で、県立病院5施設(加茂病院、津川病院、坂町病院、新発田病院、吉田病院)、その他8施設であった。

術中迅速診断は組織診、細胞診合わせて前年比2.9%減の1,356件で、組織診は前年比3.3%増の559件、細胞診は前年比6.8%減の797件であった。術中迅速は日常業務と併行、あるいは中断して、数十分で標本作製から診断まで行わなければならない術式に影響する重要な業務の一つである。しかし、術中迅速細胞診は、処理から染色、鏡検までマンパワーをより要するため、各手術室の依頼が重なる場合、日常業務の大きな負担となっている現状がある。今後も現状の精度を下げる事のない効率化の方法を検討するとともに、どうしても迅速でなければならない必要性を臨床側と考えていかなければならない。

免疫染色は前年比5.8%減少の14,076件、一方乳癌のHER2タンパクの免疫組織化学的検索Hercep Test

は90%の増加で574件となった。この増加は、一時Hercep Testを受ける事の出来る病態を限定されていたのが、回復したためと思われる。これら遺伝子、免疫染色等の件数増加は臨床からのより詳細な情報の提供が求められている一つの現れであると思われる。

2007年病理検査科別依頼件数 (表2)

組織診では12,909件中、予防センターの依頼が4,839件で37.5%を占めた。消化器内視鏡が大半であったが、乳腺外来の生検数も年々増加し、前年比約11.3%増であった。本院件数では例年のごとく外科の件数が一番多く、続いて婦人科、泌尿器科、皮膚科の順であった。院外受託は1,715件で全体の13.3%を占め、プレストセンター、県立加茂病院、県立津川病院の3施設で82.4%を占めた。

細胞診ではやはり産婦人科が11,691件中5,727件で半数近くを占め、続いて泌尿器科、予防センター外科、本院内科、外科の順で依頼が多かった。院外受託は前年比34.7%減の224件で、特に県立加茂病院の減少が顕著であった。電頭依頼は院内0件であった。

病理解剖依頼は18件で、前年比28%減で、内科が主体であった。

2007年病理組織部位別件数 (表3)

部位別件数では延べ件数14,288件中消化器系が例年通り半数近くを占めた。生検材料でも消化器系が圧倒的に多く、続いて乳腺、骨髄、婦人科系、皮膚科系の順であった。

手術材料では消化器系、リンパ節、皮膚科系、乳腺、婦人科系、泌尿器科系、呼吸器系の順であった。総件数では乳腺、前立腺が、前年に比し増加傾向大であった。迅速材料は延べ件数で前年比6.4%減少

し559件であった。リンパ節の割合が今年度も200件と大きく、うち外科、皮膚科系のセンチネルリンパ節が136例で68%を占めた。他部位では消化器系、女性器、呼吸器系の順に多かった。

2007年細胞診成績 (表4)

件数は11,691件で、婦人科系が5,504件と半数を占め、続いて尿、胸腹水、乳腺、気管支・肺、喀痰の順であった。乳腺は昨年同様判定基準が異なるため別計上した。術中迅速細胞診は前年より58件(6.8%)減少した。内訳は胸・腹水が684件で圧倒的に多く、ついで肺・気管支の件数が目立った。なお迅速細胞診は現在通常の保険点数しか認められず、負担の大きい割に評価が低く、今後の保険点数増を期待したい。細胞診陽性(Class IV, V, 悪性疑い, 悪性)は1,167件で10%であった。一方目的とする細胞がほとんど見られないような標本で検体不良、及び不適正としたものが337件で2.9%あった。前年に比し2.1%減少した。前年同様乳腺で多く、263件(乳腺検体中の25.7%)みられた。前年比約10%減少したが、乳腺の判定基準では10%以下が望ましいとされており、また検体不適正は再検査など患者への負担増につながることもあり、臨床側とも協力の上で採取法等総合的に原因を検討し、より一層の改善に努めて行きたい。

おわりに

2007年病理部業務統計を報告した。総依頼件数と院外受託で微増、迅速、免疫染色では、横ばいから減少であった。内容の濃い業務で大変な状況ではあるが、精度を落とさず今後も臨床側の要望にできる限り応えられるよう努めていきたい。

最後に関係各位のご協力に感謝するとともに、今後ともよりいっそうのご協力をお願いしたい。

表1 2007年病理部業務件数

		総件数	組織診	細胞診	電子顕微鏡	病理解剖	遠隔診断
依頼件数	がんセンター	16,818	6,355	10,445	0	18	0
	がん予防センター	5,861	4,839	1022			
	院外受託 ¹⁾	1,939	1,715	224			
	術中迅速(再掲)	1,356	559	797			
	(依頼合計)	24,618	12,909	11,691	0	18	0
業務件数	ブロック数	48,555	47,882			673	
	切り出し数	69,129	68,456			673	
	普通染色	67,908	48,559	18,676		673	
	特殊染色	8,087	6,755	1,259		73	
	免疫染色 ²⁾	14,076	13,282	627		167	
	ISH染色 ³⁾	89	89				
	Hercep Test ⁴⁾	574	574				
	FISH ⁵⁾	22	22				
	(染色合計)	208,440	185,619	20,562		913	
実習生	研修医	5	新潟大学医学部 新潟大学 3, 新潟医療技術専門学校 7, 北里保健衛生専門学校 2 中国黒龍江省医師				
	医学部学生	2					
	臨床検査学生	12					
	中国研修生	1					
職員	病理医	3.1	常勤 3.0, 非常勤 0.1 (隔週 1日)				
	細胞検査士	9					
	臨床検査技師	2					

- 1) 院外13施設 (県立病院5施設, その他病院・医院8施設)
- 2) 免疫染色では130種類以上の抗体を使用
- 3) In Situ Hybridization (ISH)によるEBウイルスの検索を行った
- 4) 乳癌のHER2タンパクの免疫組織化学法での半定量的検索を行なった
- 5) FISH法による乳癌のHER2遺伝子の検索

表2 2007年病理検査科別依頼件数

	総依頼件数	組織診件数 (%)	細胞診件数 (%)	電顕件数	病理解剖
内科	1430	484 (3.7)	933 (8.0)		13
内科 (がん予防 ¹⁾)	3	2 (0.0)	1 (0.0)		
小児科	529	266 (2.1)	259 (2.2)		4
外科	2206	1549 (12.0)	657 (5.6)		
外科 (がん予防 ¹⁾)	1394	373 (2.9)	1021 (8.7)		
整形外科	299	271 (2.1)	28 (0.2)		
脳神経外科	153	42 (0.3)	111 (0.9)		
呼吸器外科	808	484 (3.7)	323 (2.8)		1
内視鏡	521	49 (0.4)	472 (4.0)		
内視鏡 (がん予防 ¹⁾)	4464	4464 (34.6)	0		
婦人科	6842	1115 (8.6)	5727 (49.0)		
耳鼻咽喉科	494	304 (2.4)	190 (1.6)		
口腔外科	1	1 (0.0)	0		
眼科	3	1 (0.0)	2 (0.0)		
皮膚科	866	866 (6.7)	0		
泌尿器科	2617	923 (7.2)	1694 (14.5)		
放射線科	49	0	49 (0.4)		
院外受託 ²⁾	1943	1715 (13.3)	224 (1.9)		
総計	24,618	12,909 (100)	11,691 (99.8)	0	18

- 1) (がん予防) : がん予防総合センター
- 2) 組織診は主に消化管生検材料, 骨髄, 乳腺の受託
細胞診は県立加茂病院より尿, 喀痰をはじめ材料は多彩

表3 2007年病理組織部位別件数 (※ 総件数, 生検材料, 手術材料は延べ総数を計上)

	生検	手術	迅速	合計	2005総件数	2006総件数
頭頸部	97	118	39	254	259	181
気管支・肺・縦隔	65	228	35	328	360	358
上部消化器	2,897	686	42	3,625	3,696	3731
下部消化器	1,576	894	2	2,472	2,600	2771
肝臓・胆道系・膵臓	27	193	65	285	349	315
腎臓・副腎・膀胱	96	259	21	376	329	417
前立腺・精巣	502	56	12	570	517	488
子宮・卵巣	617	440	59	1,116	1,403	1374
骨髄・脾臓	837	42	0	879	969	868
皮膚	137	713	3	853	813	900
乳腺	899	470	7	1,376	904	1083
リンパ	104	1,386	196	1,686	1,684	1803
骨軟部	26	159	30	215	123	252
その他	28	177	48	253	92	454
(合計)	7,908	5,821	559	14,288	14,098	14,995

表4 2007年細胞診成績

	件数	迅速(再掲)	Class I	Class II	Class III	Class III a	Class III b	Class IV	Class V	検体不良	所見のみ
頭～頸部	53	1	0	44	3	0	0	1	4	1	0
甲状腺	384	1	2	301	12	0	0	6	45	18	0
気管支・肺	621	97	3	288	24	0	0	19	286	0	1
喀痰	555	0	13	466	13	0	0	15	45	3	0
肝・胆・膵	37	1	0	25	3	0	0	1	5	2	1
子宮頸体部	4675	5	359	3820	31	344	29	21	65	4	2
子宮断端部	827	4	320	475	3	19	2	1	7	0	0
外陰部	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
骨髄	20	1	5	14	0	0	0	0	1	0	0
腫瘍	76	1	2	29	5	0	0	1	31	8	0
リンパ節	105	1	0	25	2	0	0	4	59	15	0
心嚢液	4	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0
脊髄液	404	0	8	307	9	0	0	5	74	1	0
胸水(洗浄液含)	293	91	0	173	11	0	0	7	100	2	0
腹水(洗浄液含)	779	593	3	584	26	0	0	17	149	0	0
尿	1809	0	85	1284	129	0	0	59	242	9	1
その他	25	1	0	13	0	0	0	2	5	3	2
(合計)	10,669	797	800	7,850	272	363	31	159	1,121	66	7

	件数	迅速	検体適正(良性)	鑑別困難	悪性疑い	悪性	検体不適正	所見のみ
乳腺 ¹⁾	1,022		523	38	44	154	263	0

1) 乳腺は判定基準の変更で別計上